

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・冬物バーゲンのシーズンということもあり、かなりの動員が期待される。今年の冬物は、コート系の価格が割と高いところからスタートしているので、バーゲン品を狙う客が増える。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今月の売上が、今年最低を記録したこともあり、来月以降、その揺り戻しが生じる。
		スーパー（店長）	・倒産した店の客の流入により、売場に活気が出ており、年末年始のギフト等にも期待が持てる。
		コンビニ（エリア担当）	・客1人当たりの買上額や来客数が安定している。比較的高額なビールも堅調であり、消費者の支出が安定してきている。
		家電量販店（経営者）	・来年秋より釧路地区での地上デジタル放送の開始が決まり、年末の販売量の増加が期待できる。
		家電量販店（地区統括部長）	・冷蔵庫、洗濯機等の白物家電が伸び悩んでいるものの、薄型テレビや携帯電話の好調が年末まで続くことが期待され、全体では微増の売上となる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格の低下に伴い、石油製品の価格が下がってくる。特に灯油価格は卸売の在庫過多もあるため、軟化傾向にある。
		観光型ホテル（経営者）	・この夏から、徐々に売上が増加しており、前年実績からの増加幅も大きくなっている。現在の予約状況から、2～3か月後の売上は前年、前々年に比べても大きくなることが予想され、景気はやや良くなっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・冬のレジャー営業は各旅行会社の売出しが前年より遅い影響もあり、現段階では判断できないが、海外客の動きが活発なことから期待できる面が大きい。特にオーストラリア、韓国からの観光客の動きが目立っている。
		旅行代理店（従業員）	・企業のボーナスの動向がポイントとなってくる。海外需要が増加すれば客単価も上昇し、好調となる。ただ法人需要については横ばいで推移する。
		タクシー運転手	・10月の売上が上向き傾向にあると同時に、これからの札幌は降雪期に向かい需要が見込める。
	変わらない	商店街（代表者）	・商店街の集客力に変化のない状況が続いている。中高年層が客の中心である商店街では購買心理が保守的であり、購買を刺激する要素が強くなるとトレンドは変わらない。
		百貨店（売場主任）	・昨年に比べて非常に寒いため、コート、ジャケット等の防寒物の動きが良くなる。
		スーパー（店長）	・全国の底堅い景気上昇とは比較できないが、生鮮部門については、週単位での販促活動と各売場での単品量販体制の改善もあり、1月以降着実に前年実績を上回る状況となっており、今後についてもこの傾向が続く。
		スーパー（企画担当）	・客1人当たりの買上点数が徐々に増加しており、既存店の売上も底を打った感があるが、燃料費や原材料費の価格が高止まりしており、依然として予断を許さない消費環境にある。
		コンビニ（エリア担当）	・新規競合店の出店が見込まれ、地域の人口が減少している中でより厳しい競争環境となってくる。
		コンビニ（エリア担当）	・競合店の閉鎖による一時的な売上の増加はあるものの、大型店の出店が続いており、売上増加は続かない。
		衣料品専門店（店長）	・中高年層は生活に関連する話題に敏感になってきており、物価の動きにも気を配っているようなので、なかなか良くなってくるとは思えない。
		高級レストラン（スタッフ）	・ここにきて、市中心部の百貨店の撤退の影響がボディープローのように効いてきており、今後についても期待できる要素がない。
		高級レストラン（スタッフ）	・予算額や人数の多い年末利用客を除いた予約状況が悪いが、12月はここ数年、直前の駆け込み予約が多いことから、前年並みと見込んでいる。またランチ利用客の減少が、道内企業の景気低迷を象徴している。特に地方の飲食店では、景気の悪さから閉店、業態を変更するなどの話を多く耳にする。

		設計事務所（職員）	・建設業界では低価格受注の動きが一般化しつつある。このような動きがボディーブローのように効いてくるのは必死であり、資本や競争力のない地場業者は苦戦する。建設業を主体とした景気は一向に良くならない。
やや悪くなる		百貨店（売場主任）	・報道では、物価指数上昇を否定したコメントを出しているが、現場では商品単価がわずかに上昇している。灯油価格の高騰もあり、家計の圧迫は免れない状況にある。
		コンビニ（エリア担当）	・海水温が高いことに加えて、今月上旬の低気圧の影響もあり、今後については漁業の不振が影響を及ぼし、経済環境は更に悪くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・販売台数の厳しさに加えて、軽自動車と小型車の比重が高くなっていることもあり、今後の売上はかなり厳しくなる。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況が伸び悩んでおり、旅行人員、販売額共に前年同期を5～10%ほど下回っている。
		住宅販売会社（経営者）	・住宅業界において、賃貸物件の新築については調子が良いが、持家、分譲については非常に厳しい状況である。先行きについても、国際市況による物価上昇等があり、良くはならない。
	悪くなる	-	-
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	・業種により景況感の格差が大きく、大手企業や金融証券業を中心に良くなっているものの、当地の地場中小企業では回復傾向の景況感とは言えない。
		出版・印刷・同関連産業（役員）	・地場の中小企業が大手の攻勢により後退しており、今後についても厳しいまま変わらない。
		金融業（企画担当）	・企業収益は原材料価格の上昇で厳しさが続く。個人消費は冬期賞与の引下げが予想され、需要期となる灯油の価格上昇もあり、弱めの動きとなる。観光関連は、知床・旭山動物園効果や東南アジアからの入込客の増加があり、底堅く推移する。
やや悪くなる	輸送業（支店長）	・物流業界においては、労働集約的な面が多いこと、また燃費の占める割合が大きいこと等もあり、なかなかコスト構造を変えられない状況にある。こういう中で仕事量が落ち着く時期となるため、収益の更なる悪化は避けられない。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・上期から下期前半にかけての仕事は一段落しており、受注量が減少している。このため12～3月までの間の受注見通しは前年同期から減少する見込みであり、売上、利益とも減少は避けられない。	
悪くなる	建設業（経営者）	・新規の受注がほとんど見込めず、手持ち工事も徐々に完了してくるので人、物、金の動きが更に落ち込む。	
雇用 関連	良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・現在も、採用枠を充足していない企業が多くみられ、今後についても企業が求人票を出してくることが見込まれる。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・流通業界を中心に年末商戦が始まること、番号ポータビリティが開始されたことにより家電メーカー及び家電量販店の人材ニーズは昨年を上回る。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・アルバイトの求人が増加しているほか、正社員の求人も職種、業種共にパラエティー感が出ている。兆候としては改善の方向を示している。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・依然として道外の業務請負、派遣業からの求人はおう盛だが、その他の業種については変化がみられない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・ボーナス支給後の求職者動向に大きな山場はないと感じる。また冬場の観光も大きな変化はなく、雇用発生につながる可能性は薄い。
		職業安定所（職員）	・医療、福祉からの求人は今後も増加傾向にあると思われるが、他業種において求人増が見込めるような要因がない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・新規求人数の増加がそれほど見込めない。
悪くなる	職業安定所（職員）	・大型スーパー2店が閉店し、求職者が増加する。	